

令和4年4月18日

全国漢文教育学会 会員各位

令和4年度大会に向けてのご挨拶

全国漢文教育学会  
副会長代行 詹 満江

麗春の候、会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年、12月1日にお届けした佐藤正光常任理事会代表の「暫定役員についてのお知らせとお願い」にございましたように、理事会の承認を経て、佐藤正光氏が会長（代行）となられ、私たち暫定役員は心を一にして、常任理事会、運営委員会を中心に、大会開催準備、学会誌編集他、本学会の会務を疎漏なく処理し、また理事会において令和4年度からの新役員の審議が可能となるよう努めてまいりました。しかし、昨年12月上旬、佐藤氏が急病のため入院され、現在も入院加療中ということになってしまいました。一日も早いご快復を、ただただ祈念するばかりでございます。

本年度の大会につきましては、疫病流行がまだ終息しない現状に鑑み、東京学芸大学における対面での大会開催を断念し、オンラインでの5月29日（日）一日のみの大会開催となりました。会員の皆様におかれましては、この間の事情をお汲みくださり、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

昨秋の会員総会において役員の任期制が改定され、役員の世代交代が進められつつあります。本学会は、石川忠久前会長のもと、わが国における唯一の漢字漢文教育の学会として発展してきました。私たちは漢字漢文にかかわる教育と研究の一層の充実、わが国の漢字文化の更なる振興を引き続き図っていかなくてはなりません。

そのためには、会員の皆様の声を十分に学会運営に反映できるような、会員による役員選挙の導入が必須です。現在、令和5年度総会において、現行会則の不備を改め、会員の皆様による役員選挙の実施を含んだ会則改定案を提案できますよう、準備を進めております。

この試みがやがて実を結び、前途ある次世代の会員に本学会を無事引き継ぎましたならば、私たち暫定役員一同、これに勝る喜びはございません。整備すべき課題は山積しておりますが、歩みは緩くとも、確実に前進してまいります。

会員の皆様には、ご理解ご協力の程、心よりお願い申し上げます。